

第11回王寺町総合計画審議会(兼 総合戦略懇話会) 会議録

日 時	令和6年1月23日(火) 14:00~15:40
場 所	やわらぎ会館 3階 小会議室2
出席者	<p>委 員 中川幾郎会長(帝塚山大学名誉教授)  (順不同) 沖 優子委員(王寺町議会議長)  中井一喜委員( " 議員)  黒田ゆかり委員(王寺町社会福祉協議会理事)  古林葉二委員(南都銀行王寺支店長)  長岡雅美委員(奈良テレビ放送株式会社代表取締役社長)  東中有紀委員(王寺町教育委員)  平岡秀隆委員(王寺町副町長)  森 正治委員(王寺町CIO補佐官)  池田満津子委員(町民公募)  横山奉典委員 ( " )</p> <p>事 務 局 吉田政策推進課長、酒田総合戦略係長  (株)総合計画機構 今井氏、春田氏</p>
次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第3期王寺町人口ビジョンについて</li> <li>2. パブリックコメント結果等について</li> <li>3. 答申</li> </ol>
<p>1. 第3期王寺町人口ビジョンについて  事務局説明</p>	
委 員	社人研推計は、出生・死亡についての仮定が高位、中位、低位とあるが、どれを採用しているのか。
事務局	中位を採用している。
委 員	社人研推計は1.36の合計特殊出生率で、自然増、社会増を勘案したもの。町独自のシミュレーションで出生率を2.1、社会増減をゼロとして、人口が減少していくというのは、矛盾しないか。
事務局	社人研の2023年推計ではこういった推計をされているが、実際のところ、令和4年社会減となっている。町独自シミュレーションで設定した目標どおり社会増減

ゼロ、合計特殊出生率 2.1 になれば、グラフよりも人口が上振れすると思うが、この目標達成に向けて施策を展開してきたから現時点で良い結果となっているわけで、今後も、当初の目標を変えずに、ぶれずに引き続き目標達成のための施策に取り組んでいくということと理解していただきたい。

委員 政策目標がいろいろあって、新たな後期計画でも 2.1 の出生率を目指す政策を行う。そうすると、目標として将来展望人口もそれなりに上げないと、政策と目標が乖離する形になると思う。

事務局 数値だけを考えるとご意見はもっともであるが、この 2.1 という合計特殊出生率を目指し、更に社会増減ゼロを目指すことによって、町独自の人口シミュレーションのように人口減少を抑えていくということで、最初に策定した人口シミュレーションや目標を変えることなく、ぶれずに政策を推進していきたいということで理解いただきたい。

会長 目標を変える必要はないが、シミュレーションと乖離があるのではないかとのご意見だった。

委員 社人研推計 2013 では、2060 年に王寺町の人口が 11,718 人まで減少すると推計されたため、令和 12 年に特殊出生率 2.1 を目指すこと、2 万人を維持するための施策を実行することによって、推計人口より上の目標人口を目指すということであった。社人研推計 2023 における王寺町人口推計が以前と比較して上がったため、さらに高い目標のシミュレーションが提示されると思っていた。

2060 年の将来人口を比較すると、社人研推計 2018 では 14,090 人、社人研推計 2023 では 19,902 人と約 5,000 人増加している。これは、令和 2 年の国勢調査までの 5 年間の自然増減（出生・死亡）と社会増減（転入転出）を勘案して、良い時期で推計されたものなので、かなり数字が改善している。

しかしながら、令和 4 年には社会減少になっており、社人研推計で一喜一憂できないし、楽観視もできない。ただし、社人研推計 2023 をもとに、町の政策を勘案するなら、目標数値を上げるべきだという意見は、私もそう思う。

事務局 社会減を抑えて、さらに合計特殊出生率を上げていけば、もっと上振れするという意見をいただいているが、これまで行ってきた少子化対策の成果が出て、従来の町独自シミュレーションが今回の社人研推計と一致してきたので、これを引き続き今後も目標としていきたい。

委員 2023 年社人研推計の数字は、先ほども言ったとおり楽観視できないと。社人研推計 2013 の数字をもとに、王寺町の独自要素を勘案して、結果的には 2023 年社人

研推計の数字は改善したものの、これにとらわれずに、現実的に前回通り 2 万人を目指すということだと理解した。

会 長 総合計画の基本構想は、大体 10 年だが、人口推計については、人口ビジョンは 10 年をはるかに超える長期なので振れ幅も大きい。これが少しズレたからといって議会も厳しく指摘はしないだろう。合計特殊出生率 2.1 と社会増を目指すことが、基本的な政策の姿勢になっていると理解したほうがいいと思っている。

合計特殊出生率 2.1 は、国策にもかかわるので、町単独で 2.1 は、かなり思い切った子育て政策を具体的に出さないと、絵にかいた餅になりかねない。ただこれを目標として掲げることについては、王寺町の立地や条件を考えたら、ありうる目標だと思う。神戸明石戦争で明石が勝利したように、かなり思い切ったことをやらないといけない。国のせいにしていたら実現できない。

## 2. パブリックコメント結果等について 事務局説明

会 長 出された意見は電子メールでの 1 件だけということだが、内容はレベルの高い意見だ。パブリックコメントは、どれくらいの期間があったのか。PR が足りなかったのか。

事務局 期間は 1 か月だった。町の広報紙にも掲載し PR をしたが、このような結果になった。

会 長 自治会への質問を、まちづくり協議会での政策的な対応としているので、これは今後長期的課題になってくるので、よろしく願います。道路については、国道・県道を合わせた意見になっているのでこういう回答しかない。また、駅前も国・県・町・民間など複雑である。

委 員 実現が難しい提案が多い。

会 長 高齢者・障害者の活躍の場についてもよくご存じで、産業創造館も今までない新たなユニークな提案だ。このような政策提案があったことは、覚えておいた方がよい。

### 3. 答申

#### 事務局 答申案読み上げ

会 長 答申案の基本計画推進にあたっての配慮事項の中に、パブリックコメントに対する回答的な姿勢も含まれている。

1 「協働のまちづくり」は、まちづくり協議会の設立で、住民自治を強化するということ。

2 「デジタル化」は、広報だけでなく広聴機能を強化されていくことを期待している。吉野では役場に来なくてもよいような方法を開発していこうとしている。

3 「毎年度効果検証を行う」は、王寺町の総合計画審議会は、常設型に近い。毎年、伸びたか、達成できたか、達成率を聞かせていただいて、ここはもう少しがんばってということ意見を意見しないといけない。

4 「できるだけ多くの町民への計画周知」は、パブリックコメントが1件だけというのは、良い意味にとらえると王寺町政は信用されすぎている。もう少し参加して欲しい。住民は安心してきているのではないか。このくらいの町では、シティズンシップ教育は優位性がある。公民館・体育館を使う場合は、町政に関する学習や人権学習など、シティズンシップ教育が必要である。

計画に「目指す姿」と「重要業績評価指(K P I)」を入れるのは、通り相場となったが、「現状と課題」は、整理されていない自治体が多く、今までやってきたことや担当部局の感想程度で終わっている場合が多い。この計画では、そうではなく、立ち向かうべき課題が何か、客観的かつシビアに分析して、それを受けての施策・取組がはっきり見えるストーリーになってきている。

総合計画が行政だけの計画にとらえられる危険性があるが、そうではない。議会も住民も地域も企業も、民間・市民団体も個人も役割が見えやすいようにするのが役割分担の表だ。きちっと3層に分けているのでわかりやすい。まちづくり協議会ができてきたら地域の役割の主たる担い手になってもらうことを期待している。さらに強い結集体になってくると、団体事業者もその中に入れていくことを期待している。今後の住民自治の強化に向けての手引書にもなる。役所のやる計画にはならないようにしている。

施策ごとにSDGsロゴが入っているので、何に関係するか分かるようになっていく。

この答申案についてはいかがか、過不足があれば意見を出してほしい。

(一同意見なし)

会 長 それではこの内容で平井町長に答申させていただく。

中川会長 答申書読み上げ、平井町長に手交

- 町 長 王寺町後期基本計画の諮問に対して、答申をしていただいた。令和4年11月から精力的に審議をしていただき感謝申し上げます。
- 今後の住民自治の基本となる参画と協働の基盤となる「まちづくり協議会」をどのように組織化していくのか。これが大きなテーマである。年始に能登半島の震災があったが、防災対策・地域防災力の向上にもつながる。
- もう一つの大きなトレンドとして、本格化するデジタル化への対応、これは組織の在り方自体も変えていく必要がある。
- 2025年問題、高齢化の本格化、少子化に対する対応、子ども・子育てプラス教育、色々な分野で基礎自治体に求められる責務は大きなものがある。色々な課題はあるが、地域の賑わいをどう確保していくか、2060年に2万人を維持することを目標に、今後も様々な施策に取り組んでいきたい。
- 人口ビジョンについては、南元町の人口増、マンションによる人口増を、どのように将来の人口推計に反映していくのか、それを前提にしながら組み立ててきた。今月20日に日経新聞に社人研推計2023と2013を比較して、2040年の人口予想が増えた関西自治体の上位10自治体が掲載されており、王寺町が37.3%増加と増加率一位であった。そのような記事で一喜一憂するつもりはないが、良いことが掲載されるのはありがたい。行政の後押しになる。
- 毎年1回、義務教育学校で出前授業をやっており、今年「住みこちランキング」について子どもたちから言われたが、やはりプレッシャーがかかる。将来的にはリニアの話もあり、狭い町であるが、将来を見据えながら、ある資源を有効に活用しながら、住民の生活の質の向上につなげていければいいと思っている。
- 今回、審議をいただいた後期基本計画を下敷きにしながら、さらに政策を積み上げていきたい。
- 今後もお気づきの点があれば、引き続き届けていただければと思っている。本当に長い間、ご審議をありがとうございました。
- 会 長 答申を出してひと区切りついたので、皆様方から一言ずつ、ご感想、今後に向けた抱負をいただきたい。
- 委 員 審議会には昨年からの参加であったが、将来にわたってのビジョンや目標を立てる中で、この目標を達成するために、常設型で毎年点検、確認をしていくことが大事だと実感している。
- 委 員 去年6月の効果検証から委員として参加して、後期基本計画素案についての審議では、数多く意見を述べさせていただいた。結果、変わらなかった部分もあった

が、町の組織内で将来見据えて課題を認識して十分検討していただいたので、内容自体は尊重するものだと思っている。目標達成に向けて頑張っていたきたいし、私も役割を担うべき部分はしっかりと担えるよう努力していきたい。

委員 昨年4月に赴任してからの参加であり、勉強不足で理解できていないところもあった。これだけの計画を町民の皆さんに周知していくことは難しいと思う。地元の金融機関も人口が減ると栄えることができない。地元の発展があって各企業、町民の皆さんの恩恵を受けるものだと思うので、地元の活性化に向けて、引き続きお役に立てるよう頑張っていきたいと思っている。

委員 今回パブリックコメントが1件しかなかったが、昨年の住民アンケートでは、自由記述の回答が非常に多かったと記憶している。住民は、機会があれば言いたいことはたくさんある。今後もアンケートだけではなく、住民が思っていることを率直に伝えられる機会があればよいと思う。

委員 約5年にわたってこの場に在籍させていただいたことは、本当にありがたい。住みこちナンバーワンであるが、一人暮らしの人、少子高齢化で身寄りも子どももない方もたくさんいる。安心して死んでいける、そんな王寺町であってほしい。

住みこちナンバーワンだけではなく、一人暮らしの方でも、安心して暮らせる、プラス安心して死んでいける、「死に心地ナンバーワン」というプロジェクトを立ち上げて、後顧の憂いのないような人生を送れるような町になればと思っている。

委員 王寺町総合計画の6つの基本目標に基づいて推進していただきたい。個人としてもできるだけ協力したい。この6つの基本目標で魅力あるまちづくりになると思うが、これまでの人口増加は、南元町の受け皿があつてのことだ。これから人口をできるだけ減らさない、2万人を維持するためには、若い人、夫婦に来てもらうことを考える必要があり、一番ポテンシャルのある王寺駅周辺の再開発を、分譲ではなく賃貸で考えていただければと思う。

ある市では、グラウンド、大きな公園をつぶして工業団地にするという。工場を誘致して雇用を確保することを考えている自治体もある。受け皿づくりが大切だと思うので、それを念頭に置いて王寺駅周辺の再開発を考えてほしい。

委員 答申書には「1 協働のまちづくりの推進のため、あらゆる事業において参画と協働を意識するとともに、参画・協働の基盤となる『まちづくり協議会』の設立に向け、体制の整備や機運醸成に努められたい」とあり、後期基本計画の具体的施策1「参画と協働」の具体的な取組にも「まちづくり協議会の早期設立に向け」と載っているので、見るたびにプレッシャーを感じる。今、奈良県自治連合会で

も、市町村の連合会長が集まって「まちづくり協議会」の研究をしている。これまでは県連合会の活動についても、これからは横のつながりを持っていかないといけない。例えば災害が起きたときに、天理市だから、奈良市は関係ないというわけにはいかない。普段から横のつながりを持っておく必要があるということで、部会に分かれて会議を進めている。

王寺町でもまちづくり協議会の早期設立に向けて頑張っていないといけない。先進地視察研修も重ね、ワークショップも重ねてきた。どのような組織が王寺町でふさわしいのか、できるだけ早く見つけ出し、人材を取り込んで、できるところからできる地域からやっていかなければいけない。

様々な会議の機会に、参加してもらえよう声をかけている。小さなこと身近なことだが、町民に説明するためのPRパンフレットも作っていききたい。

議会でもまちづくり協議会に目を向けていただいている。このメンバーからも参加をお願いしたい。

委員 この審議会に出席させていただいて、たくさんのことを勉強させていただいた。今まで自分に関係ないとスルーしていたことがほとんどだったが、会議に出て多くのことを学び、勉強もたくさんさせていただき感謝している。目標に近づけるよう、協力できるところは協力していきたい。

委員 一番難しいのが、町民の声なき声をどうやって聴くかだ。まちづくり協議会に参加するような意識の高い人からは意見が出てくる。あまり反響がないということは、町長の町政運営が非常に良くて、皆さん満足されて特に意見がないという状況であればいいが。

奈良市では清掃のことや、公民館廃止、福祉避難所をどうするかなどでもめている。対立する意見が出てきた時に初めて、住民は身近な問題として町政を感じられる。

この計画で2万人の維持をやりましようと言った時に、町民のほとんどは、やればいい、私には関係ない、皆さんやっていただければと、そういう意識である可能性が高い。町民の意識をどうやって町政に向けるかが最も大事だと思う。

今災害が起こっているが、自治体にとって最も大事なことは、住民の生命・財産を守ることだ。そのためには普段から町政に関心を持っていただいて、そういうことが起こった時に町民一人一人がどうするか、普段から町と一緒に考える、そういういったところから町民に働きかけていただければと思う。

委員 この計画を実行する立場であるが、進める立場としては厳しい部分もある。避けることなく、職員とともに何が一番大事かを考え、必要なことから着実に進めたい。

人口問題が一番の課題で、人口を増やすには受け皿が大事だと考えており、着実

に進めたい。

これは行政が先頭に立つよりも民間の企業が王寺町に魅力を感じてやっていただけるかが重要なポイントなので、民間と手を結んで王寺町の新たな改革をしていきたい。

委員 自治体DXの推進という国の施策を、王寺町でどう取り組んだらよいかということで協力させていただいた。本計画案のどの項目にもデジタル技術を使ったら、変えていけることがある。なんでもデジタル化したらいいというわけではない。「デジタルに変える」ではなく、「デジタルで変える」ことを意識して進めていきたい。

デジタルデバイドの問題もきちんと指摘されているが、DX担当としては「来なくていい役場」を進めようとしている。IT部門の職員だけでなく、担当課も前向きに取り組んでいる。より良い町になるように、お手伝いできればと思っている。

町長 住民の皆さんに、町の方向性・課題をどう関心を持って目を向けていただけるか、それぞれの地域の構成員として役割を果たしていただきたい。災害が起きると、特にそう思う。

広報ツールなどいろんな手法で関心を持ってもらう。常に役場に提言してもらえるようにしたい。一挙に目標達成とはいかないが、住民の皆さんの意識改革はそのような地道なものだという前提で取り組んでいきたい。

会長 意義のあるご意見・ご提言をいただいた。本日の案件は以上で終わりだが、私からも一言申し上げたい。

1月1日に能登半島で大地震があった。東日本大震災でも、阪神淡路大震災でもそうだったが、中央政府も、県庁も、市町村も3日間（今回は5日間）は役に立たない。

地域社会とか、向こう3軒両隣がどれほど生命線を支えているかということも、もう一度想起していただきたい。私たちは都市型社会に慣れてしまっただけで、何かあったらコンビニで手に入る、手に入らなければ役場たたいて職員を動かすみたいな、まるで王様のようなカスタマー意識がはびこっている。

役場の職員は仲間で、町民に代わって仕事をしてもらう代理者として、私たちが送り出しているという気持ちになっていただいたら、この計画ももっと見やすくなると思う。

これは役場だけではなく、企業も同じことだ。今の時代は、企業といえども、安全や環境など、社会的倫理に反するような商行為活動をした企業は滅びてしまう。吉本興業は危ないと私は思っている。根本的な倫理に抵触している可能性があり、スポンサーは逃げている。調子に乗って、力を握るといって一方向しか見ていない



ことが原因だろう。

大事なことは持たれ合うことで、持たれている現実を素直に受け入れることが大事だ。参画と協働というのは、面倒さを引き受けること、弱さをお互いに引き受けることの教育が必要だと私は思っている。お互い様、つらいことはお互いに分かち合うという教育がもっと必要であり、生涯学習を根本的に見直さなければならぬ。

最後に申し上げたいのは、社会保障の言葉で「オムソーリ」（スウェーデン語）、意味は「悲しみの分かち合い」。これが社会保障の根本原理であって、ぶんどり合戦じゃない。根本にあるのは、お互いに支えあおう、社会哲学でも、持たれる権利、支えてもらう権利という言葉が出てきている。

持たれていい、恥ずかしくない、そういう地域社会をつくっていく、それを支える行政機構であってほしい。そういうことが、この計画に流れていると思う。皆さんに将来にわたって大事にしていただけたら嬉しいと思っている。

#### 【閉会】

事務局

今回の審議会をもって、総合計画審議会条例第4条に基づき諮問に係る全ての審議が終了した。これまで永きにわたり、ご出席、ご意見をいただき、ありがとうございました。

以上